

第 1 回 いたばし魅力ある学校づくり審議会 小委員会

日時 令和 4 年 5 月 31 日 (火) 14:00~15:45

場所 区役所北館 6 階 教育委員会室

1 委員長及び副委員長の選出について

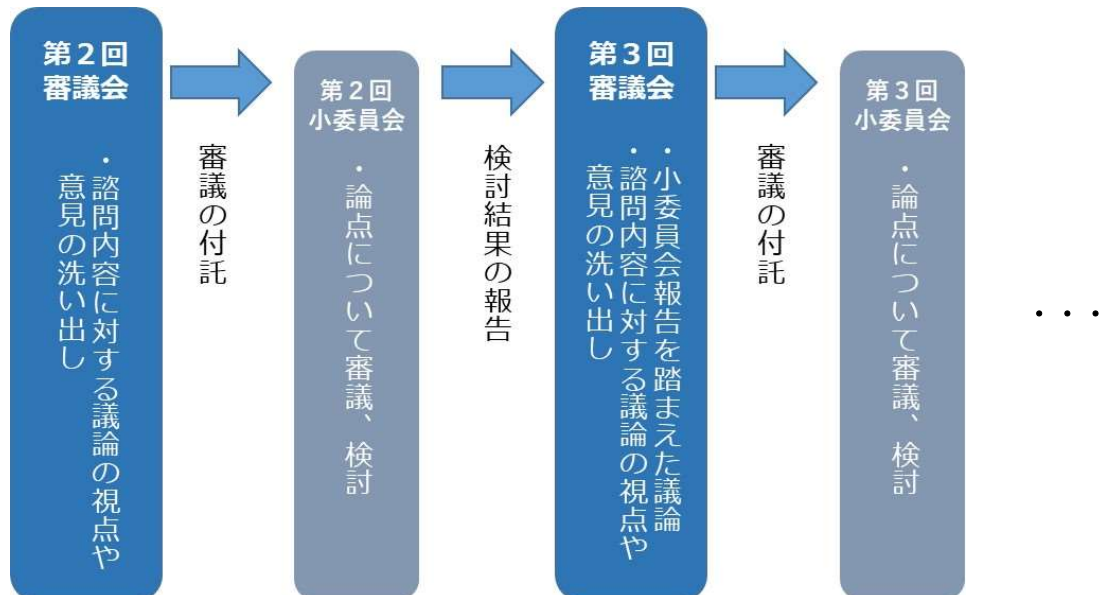
- 小林 委員長
- 横川 副委員長

2 審議の進め方について

(1) 審議スケジュール

月	令和4年				令和5年								令和6年																					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月							
審議会 (回)	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧		⑨		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭							
小委員会 (回)		①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧		⑨		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭						
1 適正規模	[Blue bar]				[Dashed bar]				[Blue bar]				<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>中間 の ま と め 検 討</div> <div>中間 の ま と め 完 成</div> <div>パ ブ リ ッ ク コ メ ン ト の 実 施 結 果</div> <div>答 申</div> </div>																					
2 適正配置	[Blue bar]				[Dashed bar]				[Blue bar]																									
3 適正規模化の方法	[Blue bar]				[Dashed bar]				[Blue bar]																									
4 通学区域					[Blue bar]																													
5 小中一貫型学校									[Blue bar]																									
6 地域協議									[Blue bar]																									
7 施設内容・施設更新 その他事項																			[Blue bar]															

(2) 審議会と小委員会の関係



3 小委員会での協議について

(1) 適正規模について

- ① 適正規模には2つの意味があり、学級数（学校規模）と学級人数（学級規模）を区別して検討しないといけない。
- ② 国の手引き等で書かれている適正規模化の目的は、小規模校の適正規模化に焦点が当てられていることが多く、大規模校を適正規模化する目的からも議論した方がよい。
- ③ 地域や学校によって状況は異なるため、地域別・学校別に検討してもいいのではないかな。
- ④ 単学級ではデメリットが多く、子どもや保護者間のトラブルがあった場合にも複数学級であれば指導・対応の幅が広がる。
- ⑤ 児童・生徒数が少ない方が一人ひとりを把握しやすいが、子ども同士の関係に問題がある場合や社会性を育む視点からは課題が生じやすく、複数学級が望ましいといえる。
- ⑥ 教員の育成やジョブローテーションの観点では、学級数を一定程度確保することによって教師間の学びあいができ、若手に対してベテランが模範授業を行うなど、OJTによる人材育成に取り組みやすい。
- ⑦ 養護教諭や専科教員等は、大規模校になれば負担は大きい。
- ⑧ 大規模校でも小規模校でもやらなければならないこと（校務分掌）は同じであり、大規模校では分担できるが、小規模校では一人当たりの負担が大きい。
- ⑨ 1学年9学級、1学級45人の中学校で勤務した経験からすると運動会等学校行事は活気があってよいが、校外での移動が繁雑となったり、個人情報管理が膨大であったり、運営面・安全面等で難しい面もある。
- ⑩ 大規模集合住宅の建設により大規模校となっているのであれば、いずれ子どもの数は減っていくのではないかな。今後も子供が増え続けるのか、減っていくのかにより対応は異なる。
- ⑪ 学校規模に関わらず板橋の子どもたちには同じ教育を受けてもらいたい。小中学校でいい思い出を作るとはとても大事で、学校が大きいか小さいかは別の話である。板橋で教育を受けてよかったと思えるような学校づくりをしてもらいたい。

(2) 1学級あたりの人数について

- ① 35人学級編制が導入されている小学校1年生から3年生の1学級あたりの平均人数は27、28人であり、きめ細かな指導が実践しやすくなっている。
- ② 1学級あたりの人数に関して少ない方がいいと考えられることもあるが、一定程度人数がいた方が集団の中で社会的な学びや協働的な学びができるので、国で定める35人学級編制により対応してもいいのではないかな。
- ③ 学校規模によるメリット・デメリットはあるものの、見方により異なる。例えば、中学校では数学や英語では習熟度別少人数授業が実施されており、デメリットは解消できているのではないかな。

- ④ 国が 35 人学級編制を導入している中、1 学級あたりの人数を区が独自に定める必要があるのか議論が必要である。
- ⑤ 答申に 1 学級あたりの人数に関する記載を含める場合、その実現には区費教員の採用が必要となるが、他区でも財政面のほか異動や昇任などのキャリア面でも課題は多いと聞いている。
- ⑥ 建築的な視点で考えると 35 人の座席配置は 7 列× 5 列しかないため調整がしづらい。また、理科室や図工室は 4 人機が多いが、40 人を 35 人にしても 1 台しか減らすことができない。区で独自に基準を設けるのであれば、ハード面でも効果が出るような人数を考えてはどうか。

(3) その他

- ① 前野小学校では通学区域内で 4 棟ほどマンションが建設され、通学区域が変更されたことで入り組んだ通学区域となっている。長い目で見て適正配置や通学区域を審議していきたい。